

かいらんばん

海良ん番

天神山地区 海良

メンバー

唐澤涼楓 黒川祐輔 齋藤宏樹 白澤萌夏 竹原優月

現状

- ・多様な職業構成で119世帯248名が暮らしている。
- ・徒歩十分ほどでJRの上総湊駅があるが、本数が少なく基本は車移動
- ・生活面では大型スーパー、大型の病院はないものの日常生活には困らない
- ・富津中央ICも近く都心へ向かうのにも便利な環境
- ・しかし地域内には職がなく、進学や就職を機に地域外へ出て行ってしまう人が多い



特色・魅力

- ・手つかずの里山原風景(圃場整備未実施)

- ・お祭りで生まれる地域の力 海良さくら会

- ・悠久の歴史が多く残る

→ 天神山城跡 天神社 報恩寺 石切り場 たたら製鉄所跡



理想

今ある人の繋がりと里山風景の自然を守る。

ex)「集落の現状維持のためのインフラ整備」

「今ある人口と住みやすい海良地区を保つ」

「I・Uターンの促進」

「家やお墓を守りたい」

課題

・農地保全が追いついていない

・獣害被害

・祭りの伝統継承ができていない



抽出した課題

- ・住民同士、危機感が共有されていない

ex)「お墓が守れない」

「こどもにとっては故郷だが、孫にとっては故郷じゃない」

「農地保全がおいついていない」

- ・考えたくない、あきらめ

ex)「私は関係ない。もう電話をかけてこないでくれ」

解決ルート

①現状の可視化

②危機感を共有

③将来の理想を共有するきっかけづくり

危機感に対する考えを年齢や立場の違う住民同士で共有し、
まちの立場や将来を考えるきっかけ作りを提供する。

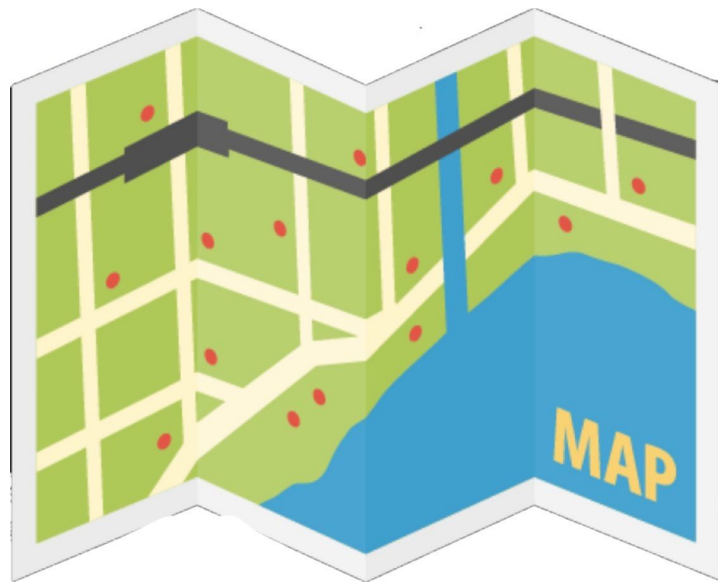
『海良ん番』～海良住民みんなでドリームマップ作り～

マップ内容:

- ①道幅や斜面などの点検マップ
- ②農地の保全状況、獣害の被害状況マップ
- ③改善案と理由のマップ(理想の見える化)
- ④残したいもののマップ

対象:海良の全世代の住民

費用:用紙代・印刷代・エクセル利用費用(合計万円程)



メリット

①行政側

→リアルな住民目線の問題点認知、協力住民増加、点検作業の軽減

②住民側

→行政側への提出による補助金獲得や、インフラ整備拡大

③役員会側

→住民の協力体制強化

海良の歩き方

内容：地図作りのためのウォーキング会。

集まりやすい場所をスタート地点に設定。

多様な職業、年代を混ぜた4人組で

実際に獣害被害が起こっている場所など

課題と白地図を書き留めながら歩き、戻って発見の共有をする。

役員会で白地図からエクセル上の地図にまとめて
地域住民に「回覧板」で共有する。



対象：海良の全世代の住民。

運営：役員会

宣伝方法：

「回覧板」をきっかけに人を集め、

参加者が次回の参加時に人を呼ぶ。





今後の展望

1st. 可視化が解決意欲を上げ、
アクションが起こる。

2nd. アクションによって課題解決する
＝住みやすくなる

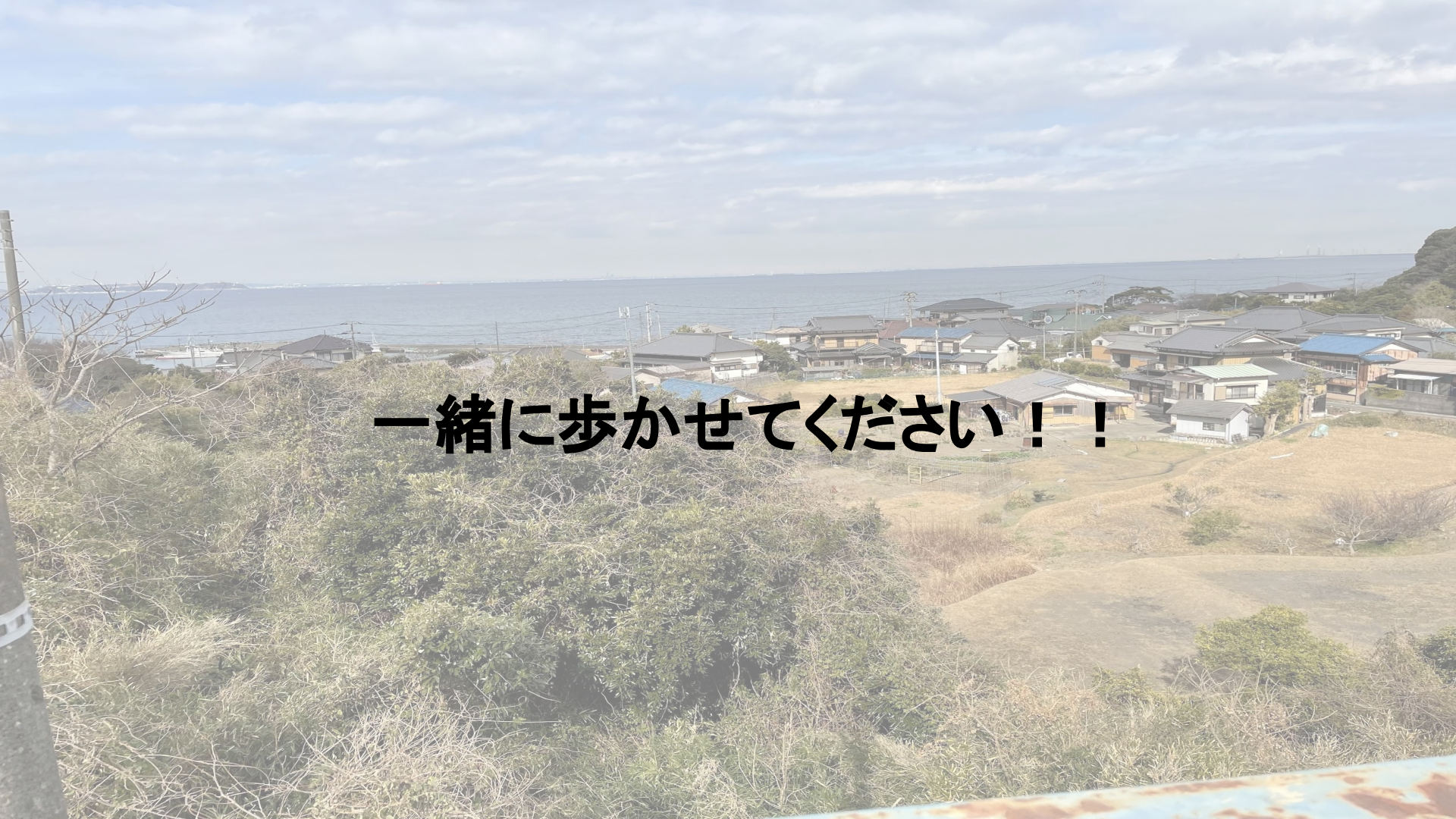
3rd. 実績が作られることで、意欲がさらにあがる。

住みやすくなる/住みやすくしようとしていることに魅力を感じる。

4th. その魅力に困って人が残る、人が戻ってくる。

→ 農地保全や空き地のマンパワー不足の解決。

→ 土地や家を使う人、継ぐ人の創出が、この地域の維持を実現。



一緒に歩かせてください！！